

研究課題：にんじんの品種特性Ⅲ

（にんじん、えだまめの品種特性）（ホクレン選定にんじん新品種の特性調査）

（力強い野菜産地づくり推進事業）（道産野菜シェア奪還緊急対策事業）

担当部署：花・野菜技術センター 研究部 野菜科

協力分担：農政部食の安全推進局農産振興課、地域農業技術センター等

予算区分：受託（民間）、道費（農政部事業）

研究期間：2007～2008年度（平成19～20年度）

---

## 1. 目的

にんじんの民間育成品種について耐抽台性や収量性、品質に加え、ブラシ洗浄耐性、機械収穫適性、在ほ性、冷凍適性などの品種特性を調査し、産地における品種選択の資料を提供する。

## 2. 方法

1) 試験作型（用途）：晩春まき（作期Ⅰ（5月は種）：青果用・加工用）、初夏まき（作期Ⅱ（6月上旬は種）：青果用のみ）

2) 参画主体：花・野菜技術センター、幌加内町農業技術センター、旭川市農業センター、ふらの農業協同組合、きたみらい農業技術センター、女満別町農業協同組合、美幌町みらい農業センター、斜里町農業振興センター、幕別町農業試験圃場

3) 標準品種および共同調査品種

（1）青果用：標準；向陽二号、共同；ベーター312、千浜五寸

（2）加工用：標準；トロフィー、共同；レッドコアダンバース

4) 花・野菜技術センターにおける調査品種数

（1）青果用・作期Ⅰ：2007年14品種、2008年21品種

（2）青果用・作期Ⅱ：2007年16品種、2008年19品種

（3）加工用・作期Ⅰ：2007年11品種、2008年11品種

## 3. 成果の概要

1) 青果用・晩春まき（作期Ⅰ）標準品種「向陽二号」対比

耐裂根性にやや劣りブラシ洗浄後の黒しみ症状（あざのように黒く変色する状態、病害は含めない）の発生がやや多いが耐抽台性および根品質にやや優る「ベーター312」、外皮および内部の根色に優れる「YCC102」、耐抽台性にやや優れ外皮および内部の根色に優れる「あまね五寸」ならびに無培土栽培では肩部が着色しやすいが収量性および耐裂根性にやや優れ、根色に優る「恋ごころ」が有望と考えられた（表1）。

2) 青果用・初夏まき（作期Ⅱ）標準品種「向陽二号」対比

上述の「ベーター312」、「YCC102」および「あまね五寸」に加え、無培土栽培では肩部が着色しやすいが耐裂根性に優れ収量性はやや優る「紅あかり」ならびに耐抽台性にやや劣るが耐裂根性に優れ収量性はやや優る「美輝」が有望と考えられた（表1）。

3) 加工用・晩春まき（作期Ⅰ）標準品種「トロフィー」対比

耐抽台性および収量性に優れる「AC-187」（ただし、黒葉枯病が多発した事例がある）、「AC-188」、「キャロリーン」（ナンテス系の根型）、「TX03037」（ただし、黒葉枯病がやや多発した事例がある）および「CH02062」、耐抽台性および収量性、外皮色および肌の粗滑は同等であるが、内部色にやや優る「AC-190」ならびに肌の粗滑がやや劣るが収量性に優れ外皮および内部の根色にやや優る「MCX-701」が有望と考えられた（表1）。

表1 2か年供試品種の特性統括表

品種・系統名	出芽 <sup>2</sup>	耐抽台性 <sup>y</sup>	収量性 <sup>x</sup>	外皮色 <sup>w</sup>	内部色 <sup>w</sup>	肌の粗滑	機械収穫適性 <sup>v</sup>	耐裂根性 <sup>u</sup>	着色難易 <sup>t</sup>
青果用：晩春まき（作期Ⅰ）									
向陽二号（標準）	—	32本/a	375kg/a	—	—	—	—	12.5%	3.9%
ベーター312	□	○	△	□	○	○	□	△	◎
千浜五寸	○	□	×	□	□	△	□	□	○
紅あかり	□	△	◎	□	□	□	△	◎	×
キャロリーン	△	□	□	□	□	×	×	○	○
YCC101	□	□	△	○	○	△	○	○	○
YCC102	□	□	□	◎	◎	△	○	□	◎
あまね五寸	□	○	△	○	○	□	□	△	□
れいめい五寸	○	△	△	○	○	□	□	○	△
FSC-607	□	△	△	○	○	□	□	×	△
恋ごころ	□	□	○	○	◎	□	□	○	×
美輝	△	△	○	□	○	□	□	◎	□
青果用：初夏まき（作期Ⅱ）									
向陽二号（標準）	—	21本/a	552kg/a	—	—	—	—	11.2%	5.4%
ベーター312	○	◎	△	□	○	○	□	□	○
千浜五寸	□	△	×	□	□	△	□	△	◎
紅あかり	□	△	○	□	○	□	△	◎	×
キャロリーン	□	□	□	△	△	×	×	◎	△
YCC101	○	□	△	□	○	△	○	○	△
YCC102	□	□	□	□	○	□	○	□	○
あまね五寸	□	□	△	□	◎	□	□	△	○
紅ほたる	○	×	×	△	△	□	□	◎	×
れいめい五寸	□	△	△	□	□	□	□	◎	□
FSC-607	○	△	×	□	○	○	□	×	◎
恋ごころ	○	△	△	○	◎	△	□	○	△
SB4026	○	□	○	□	○	□	□	◎	×
美輝	□	△	○	□	□	□	□	◎	△
加工用：晩春まき（作期Ⅰ）									
トロフィー（標準）	—	63本/a	393kg/a	—	—	—	—	7.3%	11.0%
レッドコダバンパス	○	□	□	□	□	□	○	□	□
AC-187	△	◎	◎	□	◎	□	□	□	◎
AC-188	△	○	◎	□	○	○	○	□	◎
AC-189	○	□	△	○	◎	△	□	□	◎
AC-190	□	□	□	□	○	□	○	○	□
MCX-701	△	□	◎	○	○	△	□	□	◎
キャロリーン	□	◎	◎	□	□	□	×	△	◎
TX03037	□	◎	◎	○	○	□	○	◎	◎
CH02062	◎	○	○	○	○	○	□	□	□

◎：優、○：やや優、□：標準品種並み、△：やや劣、×：劣。

<sup>2</sup>出芽の早晚および揃いにより評価。2007年は干ばつおよび虫害の影響が大きかったことから、2008年の結果により評価。<sup>y</sup>標準品種の値は収量調査時に抽台と判断された根数の2か年平均値。<sup>x</sup>2007年は規格内率および平均一根重、2008年は規格内収量により評価。2007年は欠株が多発したため、2008年の結果を重視した。標準品種の値は規格内収量の2か年平均値。<sup>w</sup>色の濃さ、鮮やかさにより評価。内部については肉色、心色および両者のバランスを考慮した。<sup>v</sup>葉柄のちぎれやすさや草姿などにより評価。<sup>u</sup>収量調査時および在ほ性調査時における裂根の発生率により評価。標準品種の値は2か年の収量調査および在ほ性調査の計4回の調査における平均値。<sup>t</sup>肩部の露出による着色根発生が少ないものを優(◎)、多いものを劣(×)として評価。標準品種の値は無培土栽培における着色根率の2か年平均値。

#### 4. 成果の活用面と留意点

- 1) 産地における品種選択時の資料とする。
- 2) 収量調査は各作期における標準品種の適期に一斉に行ったものである。
- 3) 花・野菜技術センターにおける試験は黒葉枯病の発生が少ない条件でのものであり、耐病性の評価が十分でないことおよび多発条件では機械収穫適性に影響を及ぼす可能性があることに留意する。

#### 5. 残された問題とその対応

貯蔵性については、別課題で継続検討する。